

## 「ありがとう」「ありがとうございます」って、何とすてきな言葉 ～全校集会 11 月 11 日(水)の校長講話から～

今回の全校集会は、インフルエンザ対策もあってテレビ放送での会になりました。生徒指導の先生からは、最近、あいさつをしっかりとできる子どもが多くなってきたという紹介もありましたが、校長講話は、なかなか取ることができない野球の三冠王を例に出しながら、みんなの努力次第で手に入れられる、人生を豊かで素晴らしいものにする3かん王、その中の、感(かん)謝についてお話ししました。話の概要は以下のようなものです。

皆さんはプロ野球を見たことがありますか？この前の土曜日、日本シリーズ第6戦が行われ巨人というチームが日本一になりました。そのプロ野球でなかなかとることができないものがあります。「三冠王」というタイトルです。「首位打者(打率)、最多本塁打(ホームラン王)、最多打点(打点王)」の3つが1番にならないともらえないものです。なかなか難しく、5年前に1人(松中選手)その前は23年前(落合選手)にさかのぼります。

野球の三冠王になるのはとても難しいことがわかったと思いますが、みんなには、人生が豊かで素晴らしいものとなる3かん王になってもらいたいのです。

その3かん王とは、「関(かん)心」「感(かん)動」「感(かん)謝」の3つの「かん」です。「関心」と「感動」については前に少しお話ししたので、今日は「感謝」についてお話しします。

皆さんは、いろいろなことをしてもらったり、毎日きちんと食べることができたり、毎日健康に過ごすことができたり、そして、生きていられるということあたり前のことであると思いませんか？これらは、あたり前のことではないし、また、あたり前のことではないんだとわかってほしいのです。有難い(ありがたい)という言葉は、有るのが難しいと書きます。あたり前ではない有難いことなんです。毎日の生活ができるようにとお父さんやお母さんをはじめ多くの方が皆さんにかかわっているんですよ。また、毎日、食べることができているのは、植物や動物の「いのち」をいただいているんだということもわかってほしいのです。だから、ありがたいという気持ちで生活ができたらいいですね。

「ありがとう」「ありがとうございます」何と美しい言葉ではありませんか。「この美しい言葉をなるべくたくさん使う、また、そう思えるかどうかによって人は幸せになるんだ。」ということ聞いたことがあります。逆に、その反対の言葉「愚痴をいう」「悪口をいう」「不平不満をいう」「文句をいう」ことは、決していいことはなく、そのことによって幸せはどんどん逃げていってしまうんだそうです。

皆さん、ぜひ、「ありがとう」「ありがとうございます」という感謝の言葉を、きちんといえる人になってほしいと思います。特に、一番身近な人、それは「家族」ですね。ちょっと気恥ずかしさもあるかもしれませんが、お互いに「ありがとう」「ありがとうございます」と言いあえる、また、そんな気持ちで、そんな目で家族を見て接することができれば素敵だなと思います。

今日は、「感(かん)謝」について話しました。皆さんには、前にお話しした「関(かん)心」「感(かん)動」とあわせて、人生を豊かで素晴らしいものにする「三冠(かん)王」になってほしいと思っています。

今回は、テレビ放送を使ってお話ししたので、みんなの反応が見られなくて残念でしたが、何かを感じてもらえればと思っています。各ご家庭でも、家族で話をするところがありましたら、今回の内容のことなどについても、少しでも触れてもらえれば嬉しいです。